

カルチャーショック

本当に怖いのか？

ヒューマンアカデミー日本語学校 東京校 リ ワイトン

皆さん、カルチャーショックという言葉をご存知でしょうか。この言葉からどんなことを想像されるでしょうか。以前の私は、少し怖いイメージを持っていました。

私は日本に来る前、香港にある日系企業で働いていました。お給料などの条件が他の香港企業より良かったので勇気を出してこの会社に入ることにしました。

その中で一番衝撃的だったカルチャーショックは社員とのコミュニケーションの取り方です。香港企業では、普通、毎日昼休みとは別にアフタヌーンティータイムというものがあります。香港のアフタヌーンティータイムとは、毎日午後3時ぐらいに社員の皆が出前を頼んでケーキなどの軽食を取る30分程度の休み時間のことです。香港人にとってこれはマラソン中の水分補給と同じくらい重要なものです。でも、私が働いていた日系企業にはこれがありませんでした。

不満に思い、これについて上司に「香港企業なのにどうしてないんですか」と文句を言いました。そうすると「うちの企業にそんな制度はない」とあっさり断られてしまい、「なんて会社だ!」と思いました。今後もこのアフタヌーンティータイムがない会社に勤めることを考え、しょんぼりした気持ちになりました。でも、すぐに辞めれば自分の経歴に傷が付くし、考え抜いた結果「仕方ない。もう少し頑張ってみるか…」と決意を新たにしました。

ただ、日系企業では仕事が終わった後よく飲み会に誘われます。

しかし、香港人はなかなか参加しようとしません。

理由は色々ありますが、基本は家に戻って家族と一緒に晩御飯を食べたいからです。それに、仕事以外の時間にまで上司や同僚の顔を見たくありません。

上司がいつも支払いをしてくれる訳でもないし、尚更です。

でも、ちょっと待ってください。香港のアフタヌーンティータイムと日本の飲み会、一見すると、全く違うことのように思えますが、実は、どちらも目的は同じなのではないでしょうか。

ある日、上司の情熱的な誘いを毎回断るのも気まづくなり、仕方なく飲み会に参加してみました。そして、飲み会で、苦手だった上司の違う一面を見ることができました。あの40歳の上司がアニメの話べらべらと話していました。私はすごくびっくりしました。そこでわたしは気付いたのです。飲み会もアフタヌーンティータイムもすることは同じなのではないか、と。社員が集まり、上司や同僚と仕事やプライベートのことなど色々な話をしてお互いより理解し合うことができます。ただ、香港と日本の企業で社員同士の

コミュニケーションの取り方が違うにすぎません。その本質は一緒なんです。

以上、私が体験したカルチャーショックの内容です。いかがでしょうか。このような経験を経て、私は、新しい文化を体験するのは実はあまりこわいことではない、むしろ興味深いことだと考えるようになりました。

もし日系企業と香港企業にこのような違いがあると知っていたら、その会社で働くことはなかったかもしれません。でも、実際に働いてみて、飲み会に参加してから、段々と仕事が楽しくなり、「この会社を辞めなくてよかった！」と思うようになりました。皆さんも怖がらず自分の世界を飛び出してみてもいいのではないでしょうか。だってちょっと考え方を変えたらカルチャーショックも怖くありませんから。新しい世界で新しい事を体験してもっと人生を楽しみましょう。